

日本フェンシング協会
中期計画資料（2023年～2025年）
23年度版

本中期計画は、中長期の協会運営の指針となるべきものであり、ガバナンス・コードにおいても策定・公表が要請されているものである。

現状では強化予算の占める割合も多く、複数年にわたり影響を及ぼすことから、オリンピック半年前には修正し、その後4年間の強化計画（コーチ契約）を含め理事会にて承認を得ることをローリング策として想定している。

その他、単年度ごとに大幅修正・見直しの必要性があれば修正及び公表することが望まれる。

1.日本フェンシングの現状.

2.スポーツの使命と目指すべき姿.

3.日本フェンシングブランドの確立.

4.2023年度重点施策

1.日本フェンシングの現状.

2.スポーツの使命と目指すべき姿.

3.日本フェンシングブランドの確立.

4.2023年度重点施策

日本フェンシングの現状
強み・弱み、機会・脅威



内部環境

- ・メダルが取れる競技
- ・長い歴史
(オリンピック競技第1回から)
- ・グローバルな競技
- ・全国大会への近道
- ・ベテランの活性化

S

W

- ・指導者不足・活動環境の未整備
- ・道具が高い
- ・活動の中心がヨーロッパ (ルール・遠征)
- ・ルールが分かりにくい
- ・勝敗が分かりにくい
- ・顔 (表情) が見えない
- ・セカンドキャリアが描きにくい
- ・フェンシング人口の減少

外部環境

- ・オリンピック開催が近い
- ・少年スポーツからの育成が可能
- ・WCの日本開催

O

T

- ・学校数の減少
- ・部活動の衰退
- ・他競技の人気向上
- ・人口減少 (少子化)

競技参加のハードルが高く、指導者も少ないことに加え競技環境を整えにくいことからメジャースポーツと比べ地域で普及しきれていない。また、ルールの分かりにくさや競技の面白さが伝わりにくいことで、見る楽しさを十分に提供できていないことからファン層の拡大ができていない。

<課題1>
各地域での普及

- 競技参加のハードルが高く、地域で親しまれるような環境が整っていない。
- 指導者が少ないことや、学校部活動の衰退により地域で競技に触れる機会が少ない
- 地域でのクラブ運営のノウハウがない。
- フェンシングをする魅力・強みをより多くの人に伝えきれていない。

<課題2>
ファン層の拡大

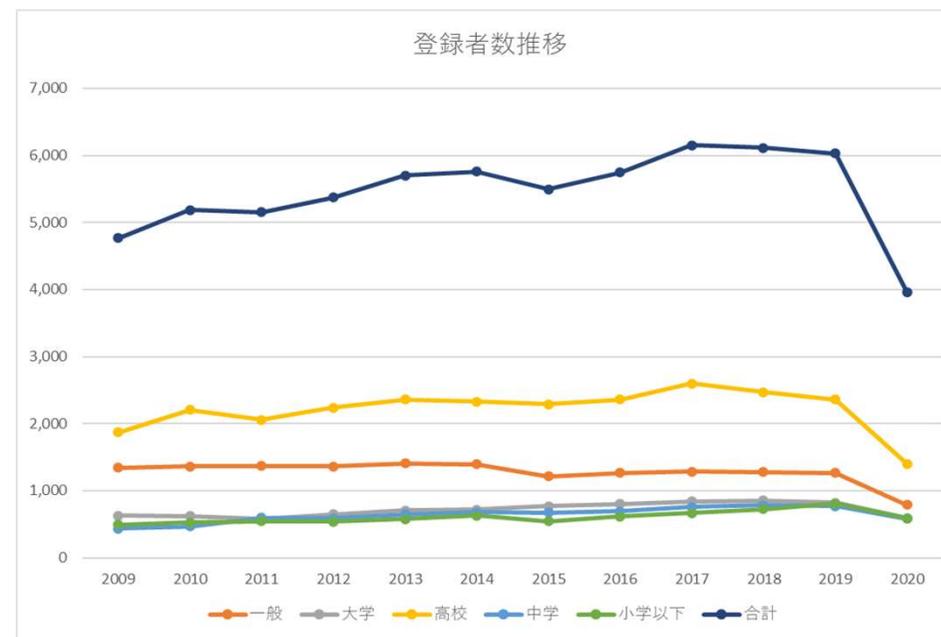
- ルールが分かりにくいため、初めて見る人に面白さが伝わりにくい。
- フェンシングの浸透度が低いため、日本代表選手の知名度が低い。
- 日本代表を応援する切っ掛けとなる機会が少ない。
- そもそもフェンシングに触れる機会がない。

日本フェンシングの現状 フェンシング人口の減少



2020年の新型コロナウイルス感染症により、競技の中止や部活動が休止となり登録者数は激減。しかしながら、それ以前より一般の登録は減少してきており、中高校生の増加以外は殆ど横ばい状態となっている。1980年代には約12,000人と言われていたフェンシング人口から大きく減少している。

	一般	大学	高校	中学	小学以下	合計
2009	1,345	630	1,868	435	491	4,769
2010	1,365	623	2,206	471	523	5,188
2011	1,371	584	2,058	597	542	5,152
2012	1,363	646	2,238	590	536	5,373
2013	1,409	705	2,360	650	575	5,699
2014	1,396	722	2,330	682	626	5,756
2015	1,213	768	2,292	676	545	5,494
2016	1,269	805	2,363	692	615	5,744
2017	1,286	842	2,598	760	668	6,154
2018	1,281	856	2,467	782	725	6,111
2019	1,265	824	2,361	771	807	6,028
2020	792	591	1,402	585	591	3,961



一般10,000円、大学生7,000円、高校生4,000円、中学生2,500円、小学生2,000円

1.日本フェンシングの現状.

2.スポーツの使命と目指すべき姿.

3.日本フェンシングブランドの確立.

4.2023年度重点施策

「スポーツ宣言日本」と課題

- 1, 公正で福祉豊かな地域生活の創造に寄与する
- 2, 環境と共生の時代を生きるライフスタイルの創造に寄与する
- 3, 平和と友好に満ちた世界を築くことに寄与する

スポーツの21世紀的価値を具体化し、実践することで、本宣言に言うスポーツの使命は達成される

本宣言では、スポーツに携わる者に求められることについて以下のように述べている。

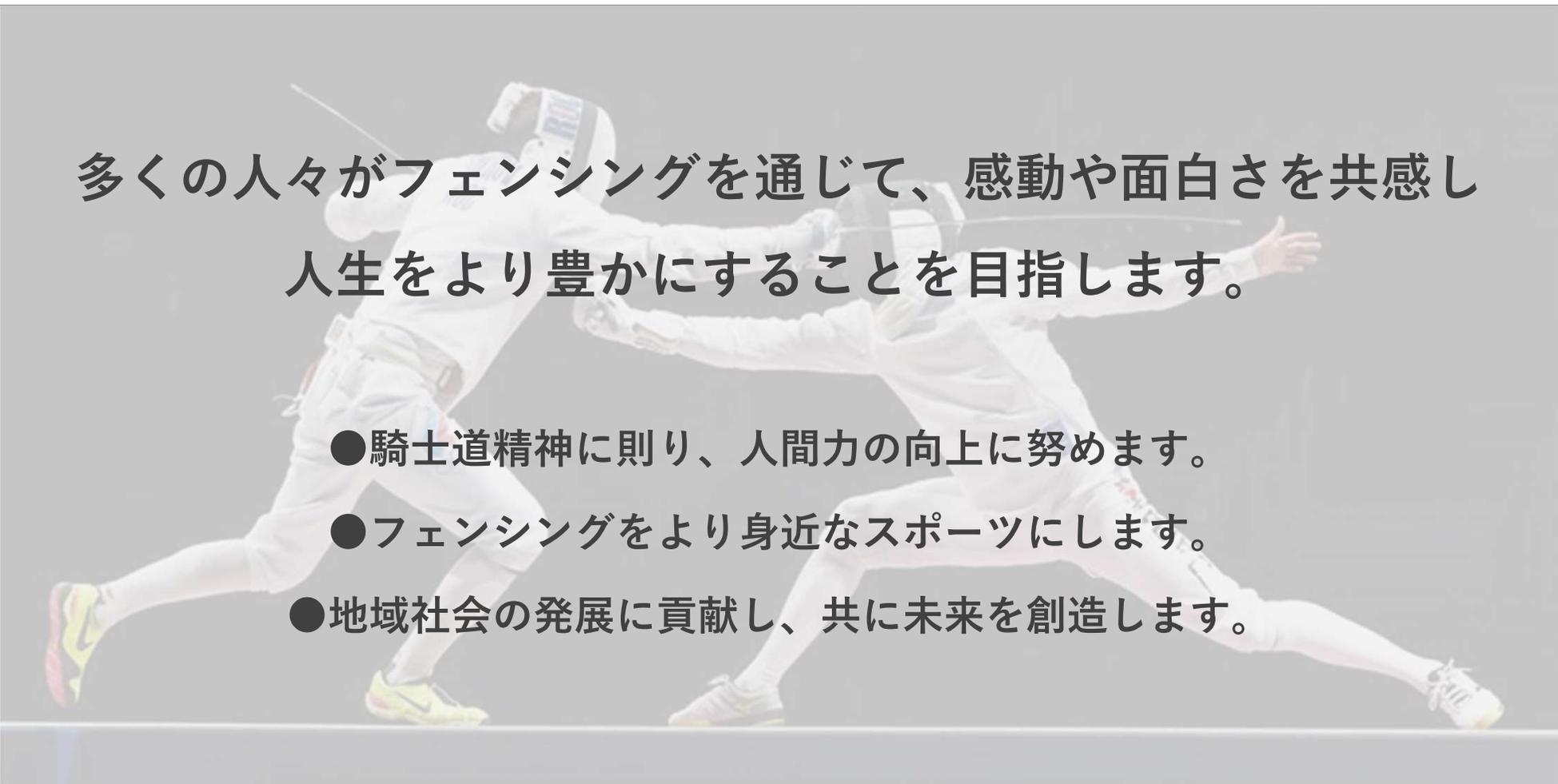
『スポーツに携わる者は、＜中略＞スポーツの有する本質的な意義を自覚し、それを尊重し、表現すること、つまりスポーツの21世紀的価値を具体化し、実践することによって、これらの使命を達成すべきである。その価値とは、素朴な運動の喜びを公正に分ち合い感動を共有することであり、身体能力を洗練することであり、自らの尊厳を相手の尊重に委ねる相互尊敬である。遍く人々がこのスポーツの21世紀的価値を享受するとき、本宣言に言うスポーツの使命は達成されよう』

- 素朴な運動の喜びを公正に分ち合い感動を共有すること
- 身体能力を洗練すること
- 自らの尊厳を相手の尊重に委ねる相互尊敬

「我が国におけるフェンシング競技を統括する唯一の団体として、フェンシング競技を通して国民の心身の健全な発達に寄与すること」

という日本フェンシング協会設立の目的を実現し続けるため、「**突け,心を**」を協会スローガンに掲げ、スポーツの21世紀的価値を具体化し日本フェンシングのあるべき姿を目指す。

突け、心を。



多くの人々がフェンシングを通じて、感動や面白さを共感し
人生をより豊かにすることを目指します。

- 騎士道精神に則り、人間力の向上に努めます。
- フェンシングをより身近なスポーツにします。
- 地域社会の発展に貢献し、共に未来を創造します。

1.日本フェンシングの現状.

2.スポーツの使命と目指すべき姿.

3.日本フェンシングブランドの確立.

4.2023年度重点施策

日本フェンシングブランドの確立 バリューチェーン



競技人口の 増加

意識醸成

競技力強化

発信力強化

ファンの 拡大

財政基盤の 強化

- ・経験者の競技継続（特に30代後半の経験者、未経験者の協議参加機会を増加させる）
- ・未経験者の拡大
- ・競技に触れる機会の増加
- ・競技の面白さに触れる機会の増加
- ・地方での競技活性化（地域連携）
- ・競技開始ハードルの低下
- ・会員特典の付与（情報）
- ・クラブの増加
- ・環境整備

- ・コンプライアンス
- ・多様性
- ・スポーツの21世紀的価値の具現化
- ①運動の喜びを公正に分ち合い感動を共有する
- ②身体能力を洗練する
- ③自らの尊厳を相手の尊重に委ねる相互尊敬
- ・セカンドキャリアへの準備

- ・国際大会でのメダル獲得
- ・ミニムからシニアまでの一貫した育成計画
- ・自己目標と目標実現に向けた自己マネジメント
- ・評価シートによる選手育成
- ・選手選考の明確化
- ・指導者育成の強化

- ・戦略的広報の実施
- ・協会内外からの情報発信
- ・企業や他スポーツ団体とのコラボレーションの実施
- ・競技の魅力発信
- ・多様化するメディアの活用

- ・選手・協会のキャラクター作り
- ①ESG運営の実施
- ②開かれた協会
- ③多様性への理解と実践
- ・選手のキャラクター作り
- ・イベントの開催
- ・業界内外とのコラボレーション

- ・会員登録システムの改正
- ・会員限定の情報提供
- ・賛助会員の活用
- ・スポンサーへのメリットの提供
- ・会員向けスポンサーのコンテンツ作成
- ・配信動画へのスポンサーコマercial

日本フェンシングブランドの確立

持続可能な日本フェンシング界の発展のため、
地域との連携を深化し競技人口増加の基盤を構築すると共に、ファン拡大のための様々な取
り組みと、発信力を高め日本フェンシングブランドの構築と経営基盤の強化を進めます。

1	競技人口/ファン人口を 増やす (会員10,000目標)	<u>ファンベース拡大と地域との連携深化</u> ▶ 地域に存在するフェンシング競技者/ファンと協力しつつ、 自治体や地域企業と連携して新たな競技者/ファンを増やしていく
2	発信力強化	<u>戦略的な広報活動や他競技とのコラボにより競技の魅力を発信する</u> ▶ 戦略的広報の実施/協会内外からの情報発信/企業や他スポーツ団体 体とのコラボレーション/発信メディアの多様化
3	持続可能な 強化・育成の体制を築く	<u>持続性のある選手育成/強化の仕組みづくり</u> ▶ 継続的に選手を育成するための環境やノウハウを日本のメソッド として構築し、指導者層の増強を図る。
4	経営基盤の強化	<u>ステークホルダーへのメリットの明確化と提供</u> 会員登録システムの簡素化/会員限定の情報提供//スポンサーへのメ リットの最大化

日本フェンシングブランドの確立 中期計画重点施策



		2023年11月	2024年11月	2025年11月
競技人口/ファン人口を増やす (会員10,000目標)	競技人口増加	<ul style="list-style-type: none"> 県協会との連携強化と地域でのクラブ活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 県協会の競技普及体制の充実化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における幅広いカテゴリーでの競技会の開催
	ファン増加	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすいフェンシングの魅力の発信/選手・コーチの意識醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 選手、協会のキャラクターづくり/各所でのイベント開催による競技に触れる機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 業界内外とのコラボレーションによるファン層の拡大
発信力強化	体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 協会内広報の体制再建 	<ul style="list-style-type: none"> 各メディアとの連携再構築/他団体との連携構築 	
	強化	<ul style="list-style-type: none"> 発信メディアの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット別情報発信媒体の選定・実施/発信方法の検討・実施 	
持続可能な強化・育成の体制を築く	強化	<ul style="list-style-type: none"> コーチ評価の仕組み/強化予算の進捗管理の徹底 選手の価値向上（人材育成） 		<ul style="list-style-type: none"> 指導者ライセンスの開始
	育成	<ul style="list-style-type: none"> 属人的な指導からの脱却 	<ul style="list-style-type: none"> 競技強化の中期計画の策定 指導メソッドの確立 	
経営基盤の強化	会員獲得	<ul style="list-style-type: none"> 会員登録メリットの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供動画の限定配信 	<ul style="list-style-type: none"> 2C/2Bマーケティングの稼働
	スポンサー	<ul style="list-style-type: none"> スポンサー価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> スポンサー向け会員コンテンツの開発/親和性の高いスポンサーの発掘 	<ul style="list-style-type: none"> スポンサー価値の最大化に向けたスポンサーとのタイアップ企画の始動

1.日本フェンシングの現状.

2.スポーツの使命と目指すべき姿.

3.日本フェンシングブランドの確立.

4.2023年度重点施策

新型コロナウイルスの影響を受けた経営基盤を再構築するため、登録者数の回復と競技人口増加に向けた地域連携の強化及びファン（スポンサー含む）拡大に向けた体制作り

1

パリ五輪に向けたトップ選手の強化育成

2

競技人口/会員の増加（会員10,000目標/2026年まで）の環境整備

3

ファンの拡大（スポンサーの獲得含む）

トップ選手の強化育成

幅広い選手層からの発掘

日本代表選手、候補選手の選出方法の再考

- ・ WC、アジア選手権、世界選手権の候補選手の選定
- ・ パリ五輪出場、メダル獲得に向けた幅広い層からの選手の発掘
- ・ ジュニアからの起用

主観的・客観的な分析による課題抽出とその克服

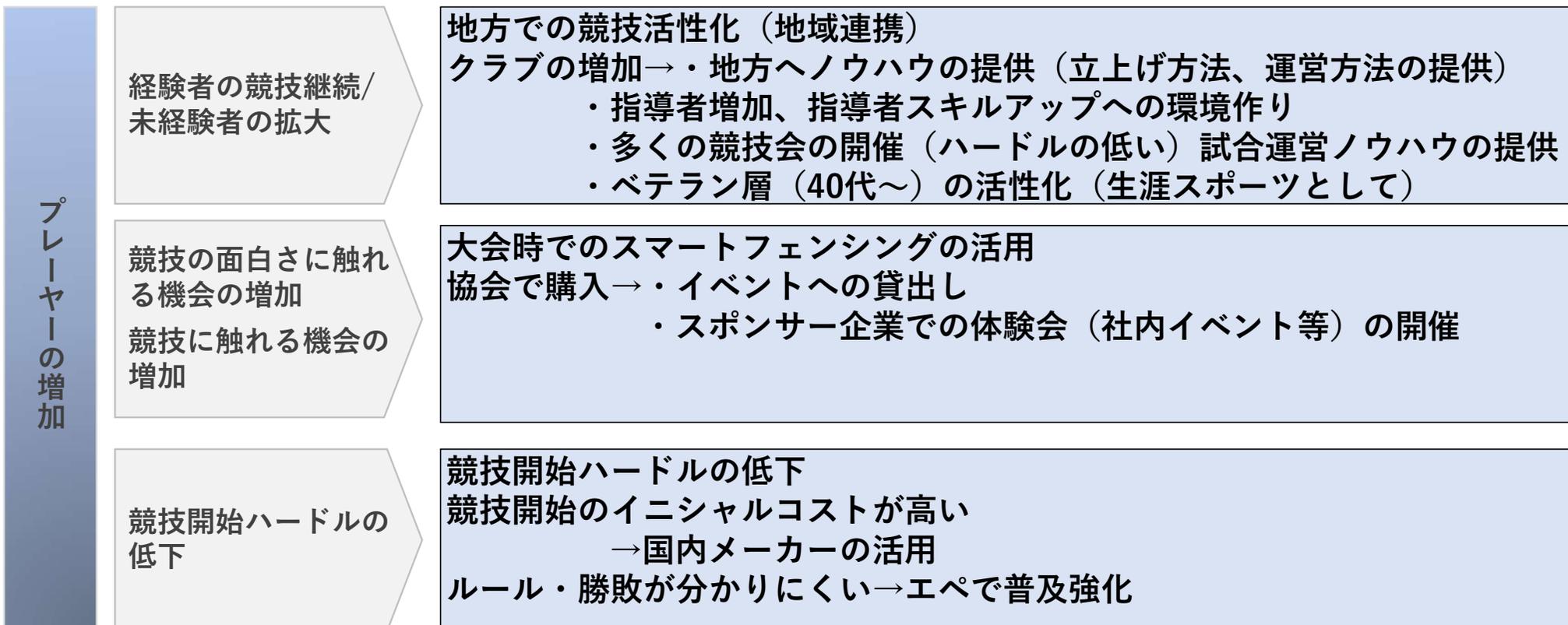
自己目標シート、評価シートの作成と運用

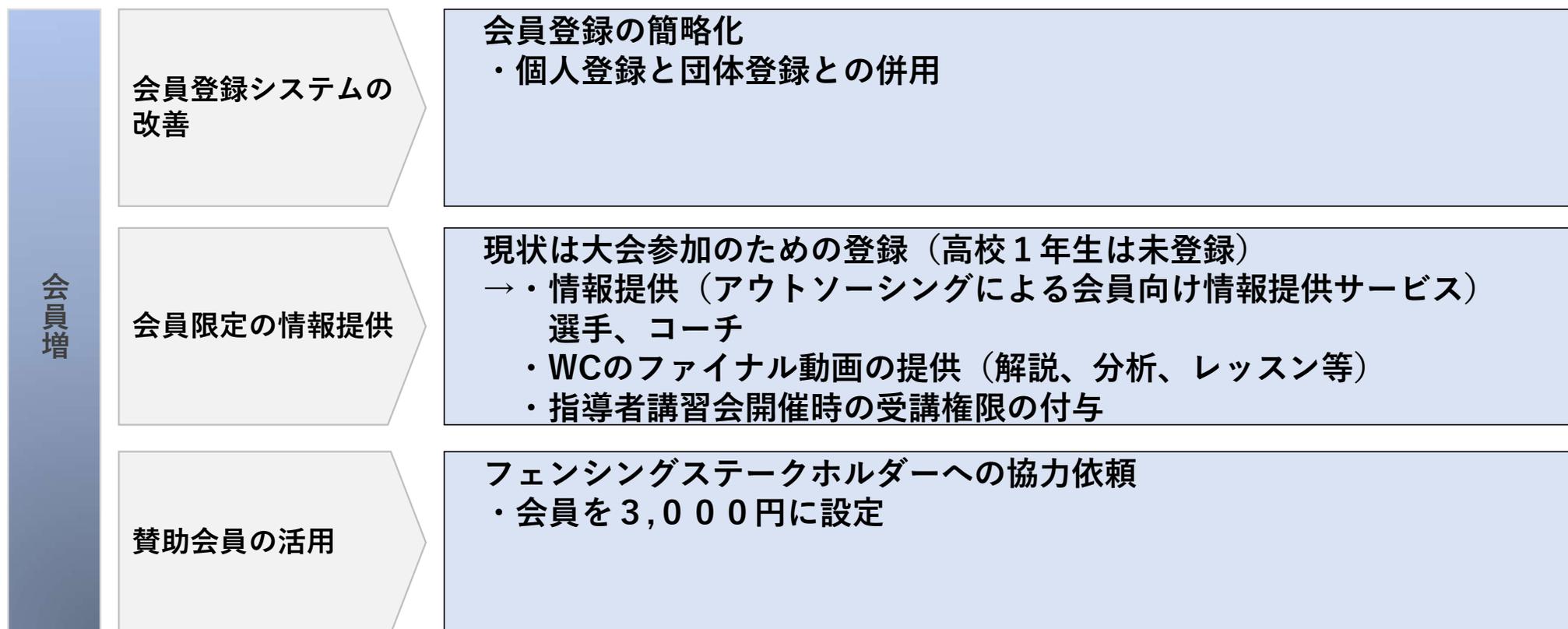
- ・ 客観的な評価による目標設定とそれを通じた、コーチとのコミュニケーションの活性化
- ・ 自身での課題抽出と克服に向けたKPIの設定

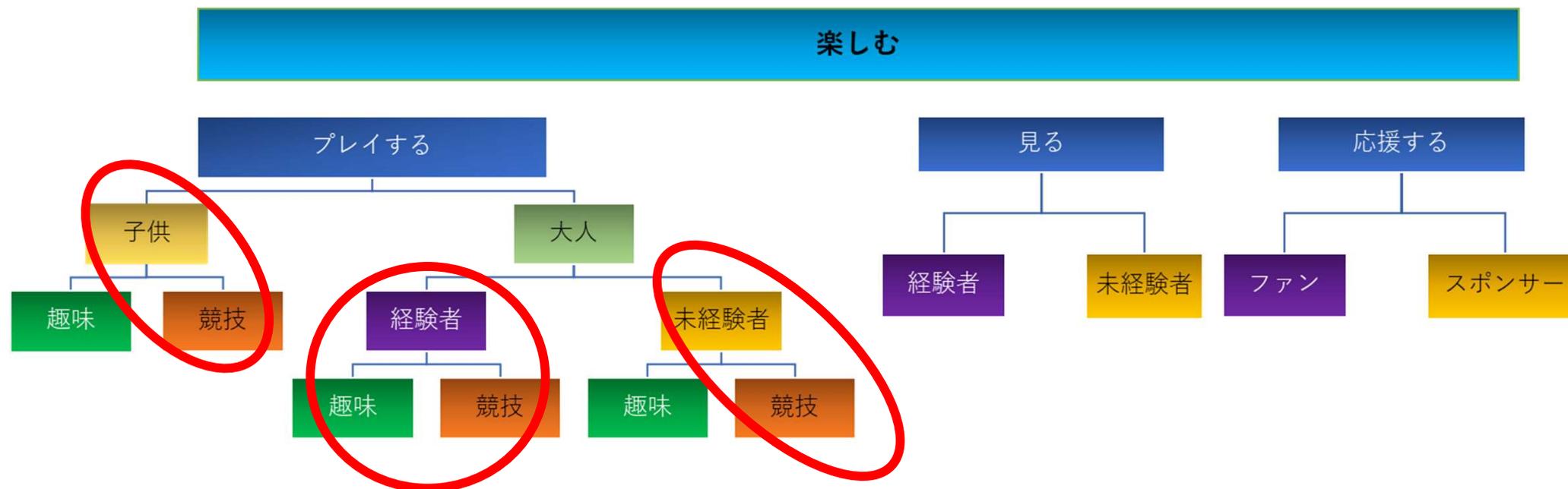
コーチ評価制度の整備

コーチの指導力向上に向けた評価制度の整備

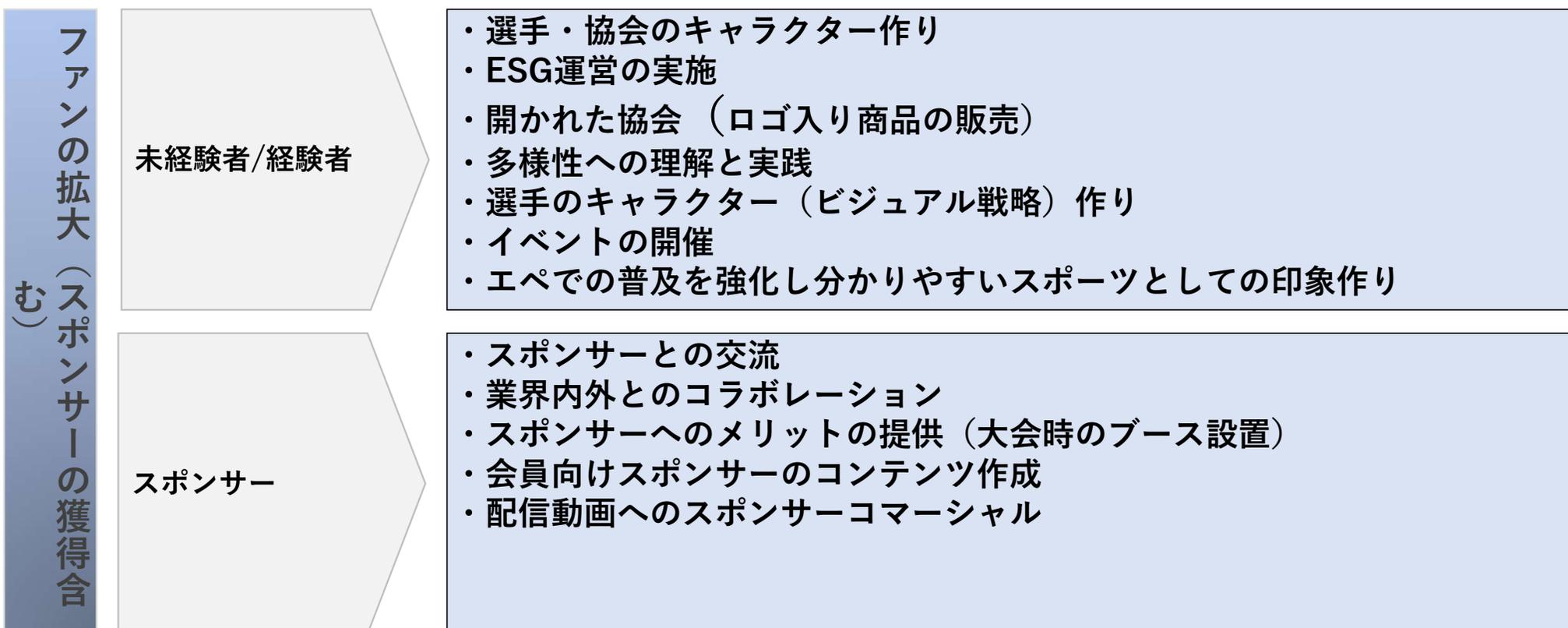
- ・ コーチ自身の指導スキルの向上
- ・ 日本代表の成長と次期コーチの育成に向けた評価設定







競技人口の増加に向けて、上記のターゲットにリーチするために地域との連携を強化し、地域でのクラブの活性化、競技の活性化のできる環境を作りを推進し、子供だけではなく層の薄い大人（一般）会員の増加を図る。





フェンシングを楽しむコンテンツを作成しエペを全面的に押し出した普及活動を推進する。
見ることを楽しむファンの拡大やスポンサー獲得に向けた、協会の顔となるキャラクターの
創出と分かりやすいフェンシングの訴求を行う。

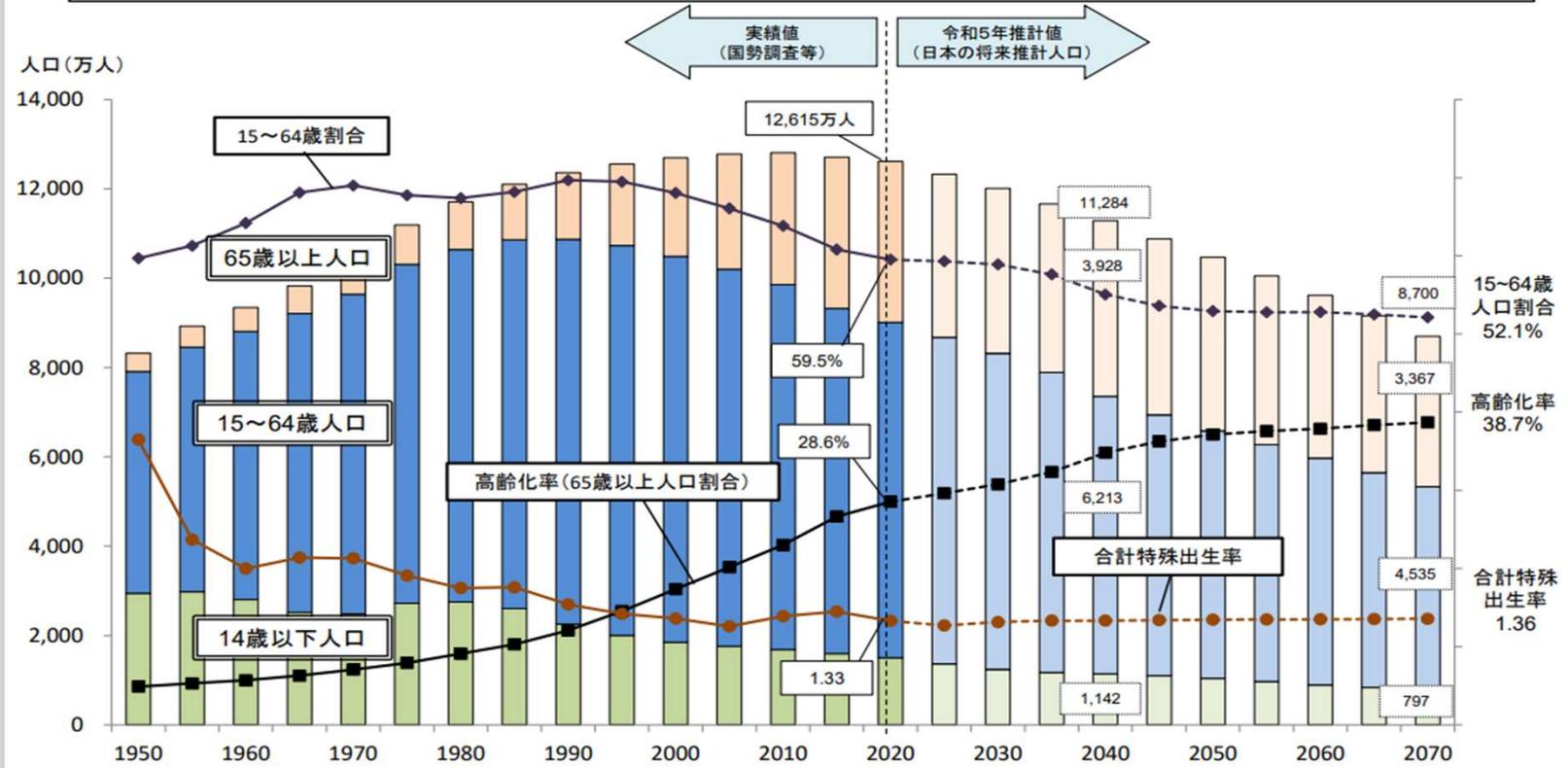
ターゲット資料.

ターゲットについて 人口推移①



日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

ターゲットについて 人口推移② (総務省統計局)



年 齢 (5 歳 階 級) 、 男 女 別 人 口
Population Estimates by Age (Five-Year Groups) and Sex

年 齢 階 級 Age groups	2023年5月1日現在 (概算値) (令和5年) May 1, 2023 (Provisional estimates)			2022年12月1日現在 (確定値) (令和4年) December 1, 2022 (Final estimates)					
	総 人 口 Total population			総 人 口 Total population			日 本 人 人 口 Japanese population		
	男女計 Both sexes	男 Male	女 Female	男女計 Both sexes	男 Male	女 Female	男女計 Both sexes	男 Male	女 Female
	人 口 (単位 万人) Population (Ten thousand persons)			人 口 (単位 千人) Population (Thousand persons)					
総 数 Total	12450	6054	6396	124,861	60,718	64,143	121,901	59,250	62,651
0 ~ 4歳 years old	417	213	203	4,223	2,162	2,062	4,139	2,119	2,021
5 ~ 9	489	250	238	4,929	2,525	2,404	4,846	2,482	2,364
10 ~ 14	527	270	257	5,297	2,714	2,583	5,228	2,678	2,549
15 ~ 19	551	283	268	5,516	2,832	2,684	5,417	2,781	2,636
20 ~ 24	625	321	303	6,266	3,217	3,048	5,830	2,984	2,846
25 ~ 29	643	330	313	6,420	3,299	3,121	5,935	3,027	2,908
30 ~ 34	640	328	312	6,434	3,295	3,139	6,055	3,089	2,966
35 ~ 39	711	362	349	7,189	3,658	3,530	6,908	3,517	3,391
40 ~ 44	784	398	387	7,915	4,012	3,903	7,679	3,906	3,774
45 ~ 49	925	469	456	9,415	4,768	4,646	9,227	4,688	4,539
50 ~ 54	955	482	473	9,474	4,776	4,698	9,296	4,705	4,590
55 ~ 59	816	408	408	8,112	4,055	4,057	7,972	3,999	3,973
60 ~ 64	748	370	378	7,462	3,693	3,770	7,364	3,652	3,712
65 ~ 69	739	359	379	7,484	3,640	3,844	7,412	3,609	3,803
70 ~ 74	900	425	475	9,245	4,362	4,884	9,192	4,337	4,855
75 ~ 79	732	329	403	7,111	3,190	3,921	7,075	3,174	3,901
80 ~ 84	578	241	337	5,738	2,390	3,348	5,714	2,380	3,334
85 ~ 89	400	145	254	3,969	1,438	2,531	3,956	1,433	2,523
90 ~ 94	204	58	146	2,008	568	1,440	2,003	567	1,436
95 ~ 99	59	12	47	567	113	453	566	113	453
100歳以上 and over	9	1	8	88	11	77	88	11	77